

平成 21 年度 学校法人昭和大学 決算概要

平成 21 年度の主な事業は、江東区との新豊洲病院開設に伴う協定書の調印、旗の台校舎Cサイト建設計画に伴う近隣地の取得、新講義棟建設に伴う建築計画の策定、医療法人幕内会との共同による鏡視下手術トレーニングセンターの開設、富士吉田校舎近隣地の取得、富士吉田校舎無線AP設備工事等を行ってきました。また、各附属病院の教育環境整備として、医療用機器備品の更新、藤が丘病院診療科センター化整備に伴う改修工事、藤が丘病院からリハビリ病院への眼科移設に伴う改修工事、歯科病院の教育用ネットワーク改修工事、実習用スキルスラボ改修工事、昭月寮改修工事等を実施しました。決算の概要は次の通りです。

1. 貸借対照表について

平成22年3月31日現在の財産状況を示します。固定資産(土地・建物・機器備品・特定預金他)と流動資産(現金預金・未収入金他)の資産の部合計は1,776億1,100万円で、前年度末と比べて34億9,300万円の増です。主な要因は、土地が30億5,300万円の増、建設仮勘定が4億7,000万円の増、退職給与引当特定資産が2億円の増、富士吉田校舎教育施設整備引当特定資産が8,900万円の増となっています。また、既存の建物・機器備品等の減価償却額64億9,400万円が前年度簿価より減少しています。一方、固定負債(長期借入金・学校債他)と流動負債(次年度借入金返済金・未払金他)の負債の部合計は530億7,000万円で、前年度末と比べて15億5,500万円増加しました。主な要因は、借入金の増加16億2,100万円、退職給与引当金の増加2億2,500万円によるものです。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた「正味財産」は1,245億4,000万円で、前年度より19億3,800万円増加しました。

2. 消費収支について

消費収入の部合計は787億7,700万円で、基本金組入額77億1,700万円を除く帰属収入合計は864億9,500万円となります。予算と比べて学生生徒納付金、手数料収入、事業収入等は増となっていますが、医療収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入は減となっています。全体として5億9,200万円予算に達成していません。一方、消費支出は845億5,600万円で、予算と比べて、人件費が3億4,900万円減、教育研究経費が15億100万円減、管理経費が1,900万円増となります。支出全体で17億9,400万円予算より減となります。また、帰属収支差額では、19億3,800万円の収入超過となりました。前年度の帰属収支差額と比較しますと、前年度は15億2,200万円の収入超過でしたので、4億1,600万円の増益となります。結果的に消費収入から消費支出を引いた消費収支差額は、57億7,900万円の支出超過となります。

3. 資金収支について

資金収支は、法人の諸活動に対応する全ての収入支出の内容を示します。当年度の資金収入は922億800万円、資金支出は901億7,300万円で、当年度資金収支差額は20億3,500万円の収入超過でした。収入においては、予算と比べて、学納金は3億2,000万円の増、手数料収入は3,200万円の増、事業収入は1億2,700万円の増となりましたが、医療収入は6億7,500万円予算に達成していません。支出は、消費支出の経費のほか、冒頭の設備整備計画に係る支出及び特定資産への積み立ての支出があります。